



出張報告届

令和7年4月30日

吹田市議会議長様

会派名 吹田党議員団

代表者氏名 後藤恭平

出張者氏名 石川勝

中西勇太

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	東京都渋谷区 ふれあい貸し会議室 東京都品川区役所 品川区立環境学習交流施設エコルとごし
期間	令和7年4月16日から 4月17日まで 2日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	視察スケジュール 16日(水) 13:00~18:00 外国人有識者会議の活動報告 一般社団法人日本外国人協会主催 17日(木) 10:00~12:00 東京都品川区役所 有機給食導入について 品川区立環境学習交流施設エコルとごし

研修報告書

吹田党議員団
石川勝 中西勇太

一般社団法人日本外国人協会主催 外国人有識者会議の活動報告 会議への出席

1 研修の背景

本市においても外国人住民が増加しており、共生・協調社会の実現は喫緊の課題である。少子高齢化が進む中、外国人労働者・定住者の受け入れ増加に関する現状と課題、社会統合政策を先行事例や当事者の声から学び、吹田市における政策形成に活かすべく本視察に参加した。

2 研修の内容

・ 外国人有識者が見る日本のダイバーの現状

外国人への情報提供不足、文化的違いによる同調圧力、生活支援制度の課題を学ぶ。生活保護、土葬、選挙権問題など実態と課題を把握。

少子高齢化対策としての外国人受け入れの意義を再確認。

定住者の集中居住による地域課題（例：川口市）も学ぶ。

・ 外国人を取り巻く環境

永住権制度の脆弱さ、日本語教育や社会統合基盤の不備、経済優先型の受け入れ政策の限界を指摘。

政治的リーダーシップの必要性を認識。

・ 外国人の本音トーク

日本社会におけるプライバシー重視文化と人間関係希薄化の問題を学び、和 문화への理解を根底とした多文化共生教育、バイリンガル教育の重要性を実感。

3 研修からの学びと今後への活用

・ 外国人受け入れは単なる労働力確保策ではなく、社会を豊かにする「共生社会形成」の礎であること。・ 日本語教育、生活支援、情報提供体制の拡充とともに、心の壁（意識改革）への取り組みが必要。・ 吹田市においても、外国人市民の声を反映、活用できる仕組み（代表者会議設置等）の検討を進めるべき。・ バイリンガル教育導入などを通じ、次世代への共生意識の育成を図る。・ 政策策定にあたり、当事者との交流を原則とし、日本文化を理解していただき、折り合いをつけながら協調、共生する社会を目指していくべきである。

品川区 学校給食における有機野菜導入に関する調査報告

1 研修の背景

子どもたちの健康と発達を支える学校給食の質向上は、教育・福祉政策上、最重要課題である。

全国的に無償化が進む一方で、給食の質の低下が懸念される中、品川区等の先進事例を学び、吹田市における今後の施策推進に資するため視察を行った。

2 研修の内容

・ 【学校給食の目的と原則】

栄養摂取・健全な食生活推進・国産食材の活用が基本方針であることを再確認。

・ 【有機野菜導入の現状と課題】

有機野菜は「贅沢品」と誤解されがちだが、子どもの心身の発達に寄与するため重要。安定供給体制の構築とコスト問題が大きな課題。

・ 【吹田市と品川区の比較】

吹田市では3万食規模に対して有機米導入が進んでいない。

品川区では特別栽培米導入、SDGs 未来都市宣言に沿った取組が進行中。

・ 【無償化政策と質の課題】

無償化後、質の低下（品数減少・味の変化）への不満の声が上がっており、質をどう担保するかが問題。

・ 【食育と安全性教育】

食育の重要性、保護者理解促進の必要性の指摘。

・ 【国の動向と地域格差】

国は有機率 25%を目標とするが供給不足が懸念され、地域間格差も大きい。

3 研修からの学びと今後への活用

・ 有機野菜は「贅沢」ではなく「未来への投資」であり、理解促進と教育啓発が必要。

・ 無償化に伴う質低下を防ぐため、明確な「給食の質基準」を設定し、定期的な検証を行うべき。・ 地産地消を基本としつつ、有機野菜の段階的導入、試験導入モデル校の設置を検討。・ 保護者向け説明会や食育活動を強化し、有機農業支援と食育推進を両輪で進めるべき。

吹田市でも、子どもたちの健康を支える視点から「栄養+安全+持続可能性」を柱とした給食改革を進めるべきである。

品川区立環境学習交流施設「エコルとごし」視察報告

1 研修の背景

近年、SDGs や脱炭素社会の推進に伴い、環境教育・体験型学習施設の役割がますます重要となっている。

環境意識の醸成と次世代育成を目指す品川区の先進事例を学び、吹田市における環境政策・教育施策に生かすため、品川区立環境学習交流施設「エコルとごし」を視察した。

2 研修の内容

・ 【施設概要】

「エコルとごし」は環境学習と交流を目的とした公設施設。館内は省エネ設計（断熱性向上、自然換気利用、再生可能エネルギー導入）を実現している。

・ 【展示内容とプログラム】

体験型展示を通じ、脱炭素、再エネ、省エネ、循環型社会について市民が楽しみながら学べる工夫がされている。

子ども向けの環境ワークショップや地域連携型プログラムも定期的開催。

・ 【地域連携と普及啓発】

地域の小学校・中学校とも連携し、学校単位での環境学習ツアーを実施。

また地域住民主体の環境活動を促す支援プログラムも用意されている。

・ 【運営面】

区直営ではなく、専門事業者による委託運営。地域密着型かつ専門性の高い運営が特徴。施設自体もエネルギーマネジメントを行い、省エネ効果の可視化を行っている。

3 研修からの学びと今後への活用

・ 環境学習は単なる座学ではなく、体験と楽しさを組み合わせることが理解促進につながる。
・ 施設単独ではなく、地域学校・地域住民と連携した取組みが定着を促している。
・ 施設自体が環境配慮モデルとなり、市民への実感を促すことができることを確認した。
・ 吹田市においても、環境教育拠点施設の整備・充実や、学校との連携強化を進めるべき。

省エネ建築物を活用した体験型教育プログラムや、地域循環型社会の意識醸成に資する取組みを学ぶと共に、今後の世界・社会情勢の変化にも柔軟に対応し日本社会のために世界のためにより良い施策提案へと繋げていく。

以上